JA静岡経済連
KEIZAIREN 情報4
2021.04 NO.1279
安全・安心・新鮮でおいしい静岡県産の農畜産物をお届けします。

令和3年度　事業計画・事業方針

品評会みかんを県知事に贈呈

花と野菜のマーケットin玉露の里

Main topics
令和3年度　事業計画・事業方針 ……01
topics&news
静岡県貯蔵ミカン品評会
県知事に受賞報告……03
栽培技術向上のために
第41回静岡県中晩生柑橘品評会 ……03
地元農産物を応援
玉露の里で野菜セット販売 ……04
モニタリング機器導入促進
「はかる蔵」講習会を開催 ……04
最新研究紹介　農林技術研究所だより
環境に優しい肥料
「混合堆肥複合肥料」を開発 ……05
営農支援だより
レタスの収穫日予測について……07
お知らせ
建設部からのINFORMATION……08
あぐりんく静岡からのお知らせ ……08
テレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」のご紹介 …09
静岡ジェイエイフーズ㈱から
新商品販売のお知らせ ……09
退職者の紹介
令和3年3月31日付定年退職者のご紹介 …10

main topics
メイントピックス

令和3年度 事業計画・事業方針

Ⅰ 令和3年度事業方針

令和3年度は「JA静岡3か年計画～新時代への挑戦、農業の飛躍・経営の革新～」（令和2年度～4年度）の中間年度となります。本会は、農業の飛躍的な生産拡大に向けた生産振興と機能集中などによるコスト削減に取り組み、農家所得の向上と組合員や利用者の満足につながる事業展開をJAと一体となって進め、事業計画の達成に努めて参ります。

Ⅱ 新型コロナウイルス感染症への対応

本会は国が啓発する新型コロナウイルス感染症を想定した新しい生活様式（3密の回避、マスク着用、手洗いなど）の実践を基に、各部門で表1のとおり戦略を設定しました。令和2年度に引き続き新しい生活様式に対応した事業を行っていきます。

表1　部門別重点戦略　新型コロナウイルス感染症対策関連事項

みかん園芸部門
- ◆非接触型の宣伝方法の検討と実施
- ◆SNSを活用した花き産地情報および消費動向の発信
- ◆協議会や委員会を中心に消費宣伝コンテンツの作成と活用

茶業部門
- ◆茶品評会審査会での新型コロナウイルス感染症対応マニュアルの作成と感染リスクの少ない審査方法の提案
- ◆茶指導事業において、Webを活用した会議・研修会の開催

生産資材部門
- ◆コロナ禍で出向く体制の整備を支援
- ◆機械化体系の提案によるソーシャルディスタンスの確保

営業部門
- ◆米国における仕上茶の輸出を拡大するため、通販など新たな販売方法を検討
- ◆外食販売事業での感染防止対策の徹底とキャッシュレス化への対応

くらし支援部門
- ◆コロナ禍での葬儀（家族葬やリモート葬など）への対応
- ◆WebやQRコードを活用したエネルギーの販売促進活動

食糧部門
- ◆宅配による「味くらべ便（頒布会）」の取り組み強化

畜産部門
- ◆ブランド協議会の運営、各種共励会、販売促進への参加と開催についてWebなどの活用を検討

建設部門
- ◆新型コロナウイルス感染症対策のステイホームによる住宅リフォーム需要へ対応

Ⅲ JA静岡3か年計画におけるSDGsとの関連性

SDGsについては、行政をはじめ民間企業でも取組が進んできており、社会的な認知度も高まっています。JAグループにおいては、協同組合が目指す方向とSDGsの考え方が近いことから、JA全中は2020年5月「JAグループSDGs取組方針」を決定しSDGs達成に向け事業・活動に取り組むことを宣言しました。

このような中、本会は「JA静岡経済連3か年計画」の3つの基本目標についてSDGsの観点から整理し、その関連性について表2のとおりピクトグラムを付けました。

表2　3か年計画とSDGsとの関連性（令和2年度～4年度）

基本目標1　農業の飛躍的な拡大　対象となるSDGs目標

戦略1

飛躍的な生産拡大に直結する農業振興を行います
（1）生産拡大に向けた仕組み作りや体制の整備、消費者への安心・安全な農畜産物の提供支援
（2）販売力強化に向けた効果的な取り組みと事業提案・支援

基本目標2　経営環境に対応した事業・経営の転換　対象となるSDGs目標

戦略2

収支均衡に向けた経済事業改革を行います
（1）コスト低減に向けた仕入機能集中による低価格・省力化資材の提供と仕組の研究
（2）環境に対応した事業展開と地域・組合員の暮らしを支えるための事業提案

基本目標3　活力ある職場づくり　対象となるSDGs目標

戦略3

健全経営の強化を行います
（1）広域合併や事業連携等のJA経済事業支援
（2）健全経営と子会社管理の強化

SDGsとは…

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、「地球上の誰一人取り残さない」をキーワードに、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として2015年9月の国連サミットにて採択。地球規模での環境・社会問題が深刻化する中で、持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指す。その内容は多岐に渡り17のゴール・169のターゲット・244の指標で構成される。17のゴールはカラフルなピクトグラムがシンボルとなり、SDGsの取り組みを表す際に使われる。

Ⅳ 事業計画のあらまし

ＪＡ静岡経済連第72年度（令和３年度）事業計画のあらましについては次の表の通りです。

第72年度（令和３年度）部門別重点戦略【営農】

みかん園芸部門

◆果樹経営支援対策事業を活用し、園地整備および優良品種への改植を推進
◆温暖化に適応した栽培技術の普及と次期有望品種の導入に向けた現地試験
◆営業力強化による販路拡大と直接販売の取扱量拡大
◆選果・荷造り作業受託による生産拡大の支援
◆段ボールなど低コスト仕様への切替提案と導入

茶部門

◆販売先との連携による生産指導強化とマッチング販売
◆国内外での消費拡大に向けた取組と JA 静岡茶の商品開発・販路拡大
◆粉引き０%取引の継続実施および統一と荒茶取引開始時間改善に向けた検討

生産資材部門

◆JA の戦略に基づく営農技術の支援
◆担い手との関係強化のため、研修会などを通じコロナ禍での出向く体制を整備
◆化成肥料の銘柄集約と工場直送を基準とした価格体系の導入
◆JA 域を超えた最適物流についての研究
◆静岡提案型式農機の提案と共同購入など仕入れ強化による価格引き下げと普及促進
◆ICT 搭載高性能機械による労力低減や省力化など新技術普及のため専門知識を持った人材を育成

営業部門

◆JA タウンの魅力あるサイト作りや、B to B（企業間取引）拡大に向けた商品の提案
◆外食販売事業での新型コロナウイルス感染防止対策の徹底
◆農畜産物の輸出拡大
◆農産物の直接販売による販売力の強化
◆ファーマーズマーケットへの企画提案による営業支援

情勢

生産基盤
●組合員の高齢化
●労働力不足
●耕作放棄地増加
●異常気象の発生

交易条件
●RCEP・TPP11・日EUなど貿易自由化
●米中貿易摩擦

消費流通
●コロナ禍による消費動向の変化
●中食・外食需要の低迷
●ｅコマース市場の拡大

生活環境
●人口減少
●核家族化
●単独世帯の増加
●新しい生活様式

農政
●JA自己改革
●JAへの監査法人監査の導入

生活意識
●健康
●安心、安全

景気動向
●R3年2月期内閣府の報告で「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる」としている。

第72年度（令和３年度）部門別重点戦略【生活】

くらし支援部門

◆静岡県産茶葉および果汁を原料とした清涼飲料水を製造、販売し県産茶葉および柑橘果樹の消費を拡大
◆地域活性化、高齢者の買い物支援を目的とした、安心安全な食材宅配事業の拡大
◆葬儀の小型化、簡略化への対応
◆燃料供給拠点の永続化のため、SS の収支改善と施設改善
◆家庭用給湯・暖房と営農用需要の LP ガス化促進

食糧部門

◆買取集荷・販売の強化
◆実需者からの需要に基づいた「多収性品種」契約栽培の拡大
◆宅配による「味くらべ便（頒布会）」の取り組み強化

畜産部門

◆農業経営事業を活用し肉牛委託肥育事業の継続と新規委託農場の推進
◆受精卵移植事業により大型酪農生産者などの肉用子牛生産を促進し、ヌレ子買取り・哺育・育成を行い肉用牛の生産基盤を維持
◆本会銘柄豚「金豚王」の認知向上と飼養頭数増加
◆静岡県統一ブランド牛の認知度向上と輸出の拡大

建設部門

◆相続相談や土地活用相談を JA と連携して行い、土地活用による住宅開発物件の取扱を拡大
◆JA と連携し農業生産法人などへ農業施設を効果的に提案

静岡県貯蔵ミカン品評会

県知事に受賞報告

2月4日、静岡県柑橘委員会（事務局：柑橘果樹課）は、第55回静岡県貯蔵ミカン品評会（1月21日開催）で上位入賞をした生産者らと、静岡県庁を訪れ、川勝平太静岡県知事へ受賞を報告し、農林水産大臣賞を受賞した髙橋誠さんの貯蔵ミカンを贈呈しました。報告会には、品評会上位入賞者5人と本会石川和弘常務理事、柑橘委員会の矢岸正敏委員長が出席しました。

受賞者らは、受賞した感想や就農のきっかけ、栽培でのこだわりなどを川勝知事に話し、髙橋さんは「大臣賞を初めて受賞できうれしい。12月の天気が良かったことと、畑の巡回をこまめに行ったことが、良い結果につながった」と話しました。

川勝知事は「本県のミカンは世界に誇れる農芸品。受賞者の栽培技術のたまものだ」と受賞者を称えました。

- 農林水産大臣賞　髙橋　誠（みっかび）
- 農林水産省生産局長賞　鈴木信逸（みっかび）
- 農林水産省関東農政局長賞　石田孝光（みっかび）
- 静岡県知事賞　石橋高雄（みっかび）
- 静岡県経済産業部長賞　山本康之（みっかび）

栽培技術向上のために

第41回静岡県中晩生柑橘品評会

2月15日、（一社）静岡県柑橘振興基金協会と本会（柑橘果樹課）は、県農業会館で「第41回静岡県中晩生柑橘品評会」を開き、県下から「はるみ」58点、「不知火」30点、「甘ナツ」36点の計124点が出品されました。審査員として県職員や市場関係者、消費者代表など18人が参加し、形状・玉ぞろい・病害虫・外傷・肉質・食味などを審査しました。

審査長を務めた県農林技術研究所果樹研究センター瀧義明センター長は「7月の長雨や、12月の厳しい寒さなどで栽培に苦労したと思うが、出品された柑橘はどれも食味が良く高品質であった。生産者の努力によるものだ」と講評しました。なお、ポンカンの審査は1月21日に行われ、本誌3月号に掲載しました。

上位入賞者は次のとおり（敬称略・カッコ内はJA名）。

- 不知火
  農林水産省関東農政局長賞　乾　信男（しみず）
- はるみ
  静岡県知事賞　野澤治美（とびあ浜松）
- 甘ナツ
  静岡県経済産業部長賞　内山　勝（伊豆太陽）

地元農産物を応援

玉露の里で野菜セット販売

2月13日、中部支所みかん園芸課は藤枝市岡部町の道の駅「玉露の里」で、農産物の販売会「お花と野菜のマーケットin玉露の里」を開きました。新型コロナウイルス感染症の再拡大により消費が低迷している花きや野菜の販売を支援することが目的。販売会では、来店客の1組あたり滞在時間を短くするため、あらかじめ段ボールに野菜を詰めた野菜セットを1セット3，000円で販売しました。同課では、昨年7月にも同施設で農産物販売会を開いており、今回が2回目の開催となりました。

野菜セットには中部地区JA（JAおおいがわ、JAハイナン、JA静岡市、JAしみず）からバラやガーベラなどの花き、レタスやイチゴ、トマトなど野菜と青島みかん、計10品をセット。今回の販売会は、地元住民が対象のため、同施設と藤枝市役所でのチラシ配布のみの事前告知でしたが、朝10時の販売開始前から来店客が多く集まり、予定より15分ほど早く販売を始めるほどにぎわい、準備した50セットが完売しました。

モニタリング機器導入促進

「はかる蔵」講習会を開催

▲はかる蔵

2月4日、営農資材課は、環境モニタリング機器「はかる蔵」の講習会を、JA静岡市とJA遠州夢咲管内生産者のハウスで開きました。講習会では、同機器を開発したリバティーポートジャパン㈱の角裕二社長が講師を務め、機器の設置や操作方法を、県やJAの職員、生産者、経済連の担当者ら約40人に説明しました。

営農資材課が導入を進めるハウス内環境モニタリング機器「はかる蔵」は、ハウス内の気温、湿度、炭酸ガス濃度などをセンサーが測定し、データをパソコンやスマホで、離れたところからリアルタイムに確認することができます。設置に特別な工事を必要とせず、導入が容易で、ハウス内の環境を制御する機器「うご蔵」と連動して使うことで必要なときだけ暖房機を稼働し燃費を向上することなどが期待されています。

角社長は「はかる蔵は生産者が手軽に機器を導入でき、簡単に操作できることを目標に開発した。今後は多くのデータを集め、生産者の営農に活用してもらえるよう広めたい」と意気込みました。

▲機器の説明をする角社長

最新研究紹介
農林技術研究所だより

環境に優しい肥料「混合堆肥複合肥料」を開発

一　はじめに

静岡県では、環境への負荷を軽減し、持続的に農業生産を継続できるように、化学肥料低減技術や家畜ふん・食品残渣等の堆肥施用技術等の開発を進めています。

堆肥は土壌中の空気相を増やして保水力、保肥力を高めて、根の生育に適した環境とすることで、収量増加が期待できます。また、堆肥は肥料効果も高く、リン酸、カリを多く含む貴重な有機物資材です。

しかし、堆肥の施用は労力的に負担が大きく、安価な化学肥料の普及により施用量は減少傾向にあります。これらが起因となって土壌の劣化による連作障害などが問題となり、堆肥の土づくり効果が見直されています。このような背景から、平成24年に新しく「混合堆肥複合肥料」という規格ができました。

二　混合堆肥複合肥料とは

混合堆肥複合肥料は、一定の基準を満たした堆肥を50パーセント以下の割合で普通肥料と混合し、成形、加熱乾燥したものです。堆肥の持つ土づくり効果を期待できるとともに、肥料として成分保証をしているため、堆肥施用時に懸念されるリン酸、カリの過剰投入を回避できます。

そこで、農林技術研究所では企業と共同で、栽培期間が短い葉物野菜用の「静岡混合堆肥複合肥料523（以下開発523）」と、一般野菜用の「静岡混合堆肥複合肥料725（同開発725）」の二種類の肥料を開発しました（表1）。

開発523は、牛ふん堆肥の割合が45％で、菜種油かすも多く配合しているので、窒素全量に対する化学肥料の割合は39％と低く、特別栽培で利用できます。

開発725は、牛ふん堆肥の割合が48％で、窒素肥効の安定を狙い、緩効性のIB窒素を配合しています。窒素全量のうち45％が土壌に留まりやすいアンモニア態なので、栽培期間の長い作型でも基肥一回の施肥で済みます。

表1　開発した混合堆肥複合肥料の性質
※写真は開発523

保証成分（%）	開発523	開発725
窒素全量	5.0	7.0
（化学肥料由来）	（39）	（67）
うちアンモニア性	1.6	3.0
りん酸全量	2.0	2.0
加里全量	3.0	5.0
うち水溶性	1.0	3.0
その他分析値		
水分（%）	7.9	7.7
C/N 比	5.5	3.3

三　開発523は土壌pHの低下を抑制する

開発523を使用して、所内の無加温ハウスでチンゲンサイを年7作、計21作栽培しました。対照は配合肥料です。1作の平均収量はいずれも10アール当たり約4トンで、配合肥料と同等の収量が得られました。さらに、開発523は土壌pHの低下を抑える効果が認められました（図1）。これは原料の堆肥に含まれる石灰分の効果と考えられます。

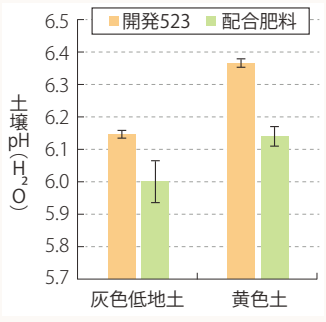


図1　チンゲンサイ21作栽培後の土壌pHへの効果

また、JA遠州中央チンゲンサイ部会の2名の方（Sさん、Iさん）に協力いただいて、実証試験を行いました。Sさんは堆肥無施用、Iさんは肥料とは別に、毎作10アール当たり1・5トンの牛ふん堆肥を施用していますが、試験中の開発523区は無施用で管理してもらいました。1

静岡県農林技術研究所
栄養・機能性科
科　長
中村明弘

年間連用した結果、いずれのほ場も開発523は生産者慣行管理と同等の収量が得られました。施設で堆肥を連用する場合、リン酸、カリが過剰になりやすいことが課題として挙げられます。Iさんのほ場では、開発523区は慣行管理より土壌へのリン酸、カリの蓄積を抑えており、肥料としての保証成分を示している効果が認められました（表2）。開発523施用による堆肥相当量は、10作合計で2・3トンになりました。腐植が試験前より増加し、土壌の硬さは慣行管理と同程度であるなど、土づくり効果も期待できました。

表2　チンゲンサイ10作後の土壌化学性への効果（生産者I）

処理区	堆肥相当量[4]（トン/10a/年）	腐植 %		可給態リン酸 mg/100g		交換性カリ mg/100g	
		試験前	10作後	試験前	10作後	試験前	10作後
開発523[1]	2.3	4.9	5.4	171	170	26	30
慣行管理[2]	15.2	4.7	5.9	170	196	23	48
改善基準[3]	—	〉5		20－80		15－50	

[1]稲わら900kg/10aを年3回に分けて施用、牛ふん堆肥は無施用
[2]牛ふん堆肥1.5t/10aを毎作、稲わら900kg/10aを年3回に分けて施用
[3]施設内土壌 灰色低地土（静岡県土壌肥料ハンドブック）
[4]開発523は堆肥の配合割合から現物量を試算

Iさんの場合、施肥にかかるコスト（肥料費、堆肥代、施肥時間から算出した労賃）は、開発523は慣行管理に比べ肥料の量が多くなるため肥料費は高くなりますが、堆肥投入時間を省略できるため労賃を大幅に軽減でき、施肥コストは同程度でした（図2）。

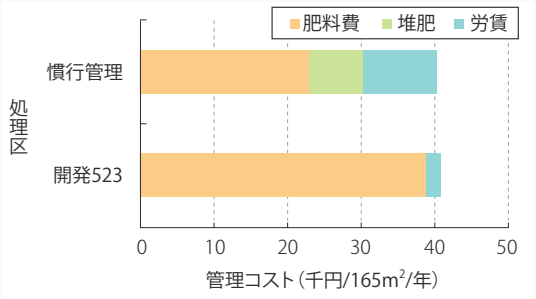


図2　開発523利用による施肥コスト（生産者I）
※開発523は未販売のためメーカー試算価格（2,000円/20kg）、他の肥料、堆肥は生産者聞き取り価格、労賃は施用時間（実測）と労働単価（1,900円/時間）から試算。

四　開発725は長期間肥料効果が持続する

ここでは、露地栽培のレタス、キャベツでの検討を行いました。

レタスはマルチ被覆するため、途中に追肥をしなくていいように、化学肥料の緩効性肥料が使われている例が多いです。菊川市のレタス生産者4名の方に協力いただいて、2～3月収穫作型のトンネル栽培で実証試験を行いました。Sさん、Yさんは11月中旬定植、Tさんは12月中旬、Nさんは1月中旬定植でした。

11月中旬定植では、開発725は慣行施肥より収量がやや少ない傾向でした（図3）。

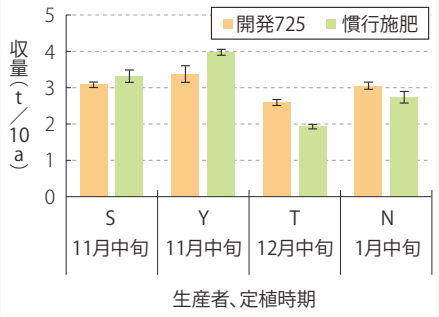


図3　レタストンネル栽培での収量への効果
※6000株/10aとして計算

開発725は、根から吸収されやすい硝酸態窒素への変化がゆっくり進むので、定植前の土壌EC（硝酸態窒素）が低いほ場では、初期の生育が劣る場合があります。このような場合は、化成肥料を併用することで初期生育を改善できます。

一方、12月中旬以降の定植では、開発725の方が収量は多くなりました。これは、定植時期の気温が低いので生育が緩慢で、窒素無機化の影響が少なかったこと、さらに無機化がゆっくり進むことで生育後半の肥料成分を確保できたことが理由として考えられます。

次に、キャベツについて慣行施肥（基肥＋追肥一回）と開発725（全量基肥施用）との比較を行いました。レタスでは、開発725は定植初期の生育が緩慢な傾向がありましたが、キャベツでは慣行肥料と差がなく、収量も同程度でした。8月下旬定植で地温が高いため、微生物による分解が順調に進んだためと考えられます。

五　おわりに

混合堆肥複合肥料による堆肥投入量は、肥料中の配合量に限られますので十分な量とは言えませんが、施肥と同時に堆肥を畑に入れられるという手軽さと、施肥基準にあった肥料成分を施用できるという利点があります。また、肥料効果が長期間持続することから、追肥削減による省力化という点でも注目されており、今年度もブロッコリーで現地試験を行っています。化学肥料にはない土づくり効果を持つ肥料として、普及が期待されます。

連絡先
磐田市富丘678－1
静岡県農林技術研究所
栄養・機能性科
agrieiyou@pref.shizuoka.lg.jp

営農支援だより

～ 作物・産地・営農・技術・資材などの情報をお届けします ～

レタスの収穫日予測について

ＪＡ静岡経済連では、レタスの有利販売を図るため、静岡県が開発した生育予測技術を基に、収穫予測を行い出荷時期やピークの情報を取引市場に提供しています。

ただしこの生育予測技術は発展途上の段階で、年内どりの収穫予測は高い精度で予測が可能となりましたが、県内生産の６割を占めるトンネル栽培による厳寒期どりについては収穫予測精度がまだ不安定です。厳寒期はトンネル被覆管理により、生育予測の基礎となる環境データ（主に気温）が変化することが大きな要因と考えられます。

トンネル内環境の調査

このため、厳寒期の生育予測の精度を上げることを目的に令和２年度において、トンネル内環境の調査を行いました。この調査は、遠隔地からリアルタイムで環境のモニタリングができる「はかる蔵」を用いて測定を実施しました。「はかる蔵」は県内ではイチゴ等の施設園芸で活用されていますが、今回露地での活用の可能性も検討することとしました。

▲はかる蔵

調査はＪＡハイナン管内（牧之原市）とＪＡ遠州中央管内（森町）の２地点のレタスほ場で11月から２月にかけて実施しました。これらのトンネル被覆期間は牧之原市で12月22日から２月19日までの60日間、森町では12月25日から２月14日までの52日間でした。

なお、令和２年度は栽培期間を通して高温乾燥が続き、特に前半はかなりの高温となりました。年明けからは適度な降雨と冷え込みがありました。

トンネル内環境データ調査結果

以下に主な調査結果を紹介します。（表１）トンネルの開閉は現地の慣行によりますが、トンネル被覆期間の平均気温は、２地点の平均で外気温が7.7℃、トンネル内は9.4℃と1.7℃高くなっています。積算温度では95.5℃になります。（図１）

平均地温を見ると、外地温が7.1℃に対して、トンネル内地温は8.5℃と1.4℃高くなっています。また、湿度は外が65.7％に対して、トンネル内は76.9％でした。

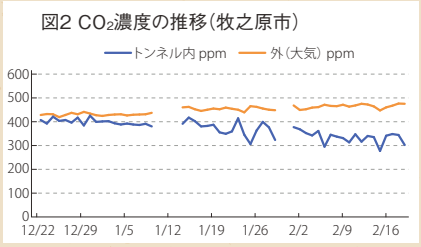
一方、CO_2濃度をみると外（大気）が450.3ppmだったのに対し、トンネル内は369.4ppmと低く、生育が進むにつれて差が広がっていました。これはレタスの成長とともに光合成が進みCO_2が吸収されることが関係していると思われます。（図２）

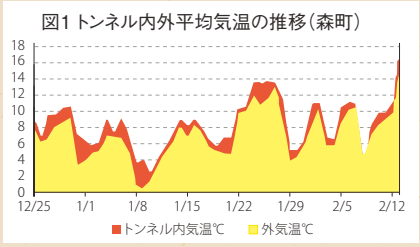
今回の調査で遠隔地からリアルタイムで圃場の環境データが把握できることが確認でき、様々な観測データを得ることができました。しかし、露地ほ場であるために電源の確保等の課題も明らかになりました。これらの成果を踏まえ、今後も引き続き調査と検討を続け栽培管理へのデータ活用や収穫予測の精度向上に生かしていきたいと思います。

（野菜花卉課 技術コンサルタント 曽根克巳）

表1　トンネル被覆期間における環境調査結果

	平均気温 ℃	平均地温 ℃	平均湿度 %	CO_2濃度 ppm
トンネル内部	9.4	8.5	76.9	369.4
トンネル　外	7.7	7.1	65.7	450.3





建設部からのお知らせ information

伊豆太陽農業協同組合

担当　建設部　054-284-9523

下田北支店建設工事　起工式
金融店舗を中心としたコンパクトな施設を整備

3月9日、JA伊豆太陽は、下田北支店建設工事の起工式を行ない、櫻井雄司代表理事組合長をはじめ14人が出席しました。式典は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、屋外で最小限の出席者により執り行いました。

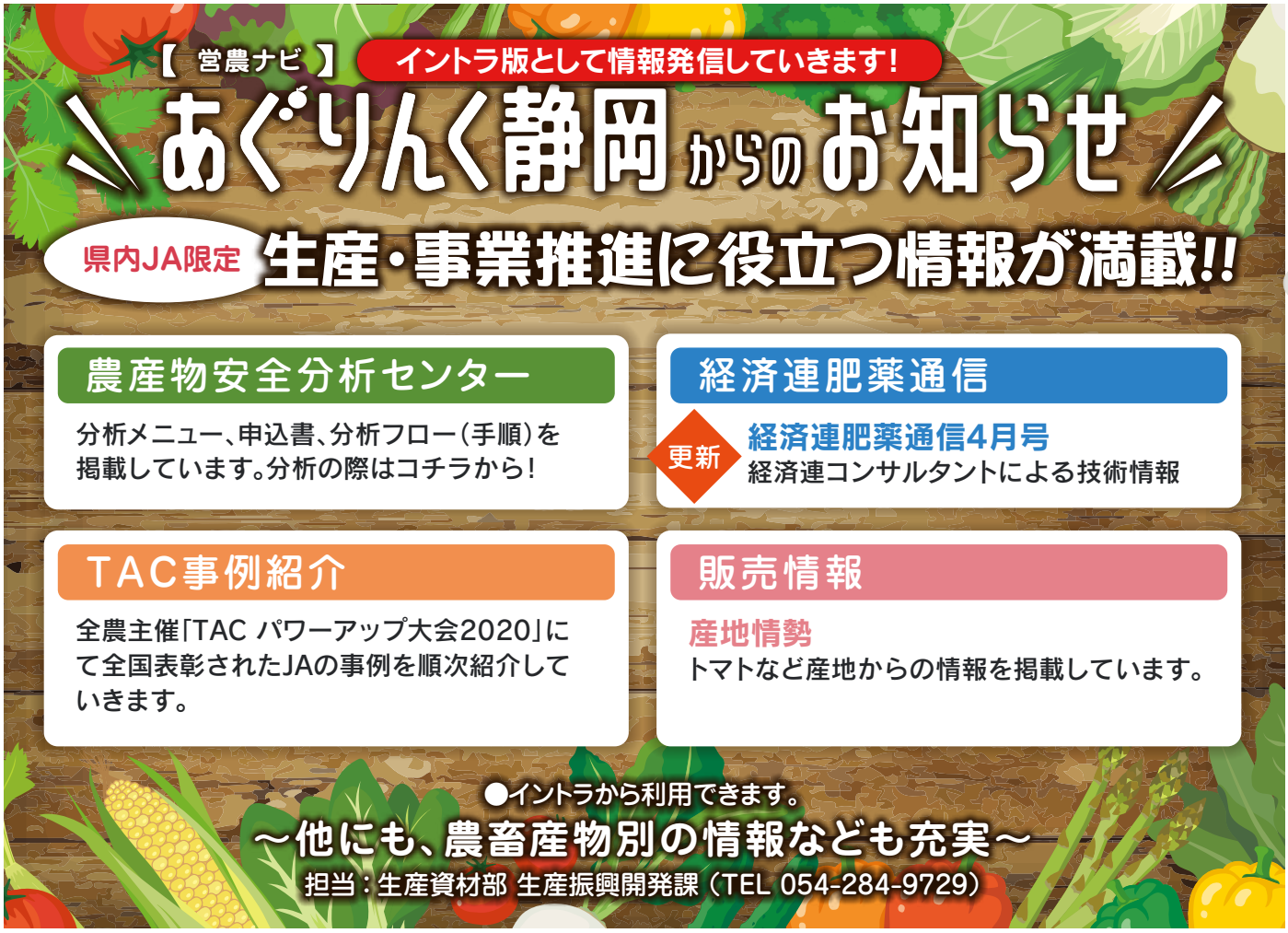
稲梓支店と稲生沢支店を統合し、金融店舗に特化した支店を計画しました。前面国道414号線が走り、敷地への車の出入りについて、安全性に配慮し、乗入れ口を中央に設けました。また、出庫時には道路側にパトランプを設け、注意喚起し出庫できるシステムとしました。建物内は、コロナ禍の状況を配慮し、Web会議等に対応するため、大会議室を2分割することが出来、それぞれでWeb会議対応の設備を設けました。

支店は令和3年9月に完成、9月27日のオープンを予定しています。

▲JA下田北支店様　外観パース

▲玉串奉奠

▲組合長挨拶



テレビ番組

「しずおかごはんが食べたい！」のご紹介

担当：食糧部 食糧課（TEL:054-284-9737）

食糧部は、協賛するテレビ番組「しずおかごはんが食べたい！」（テレビ静岡）で、県産米のPRを行い、3月放送分をもって予定していた全11回が終了しました。

2月20日（第10回目）の放送では、磐田市と浜松市から静岡県産「にこまる」をお笑い芸人オードリー・春日さんが紹介し、3月20日（第11回目）の放送では、熱海市・函南町から「静岡コシヒカリ」をお笑い芸人フォーリンラブ・バービーさんが紹介しました。

令和3年度についても、引き続き食糧課がテレビ番組に協賛し、静岡県産米のPRをおこなう予定です。

▲静岡県産米を紹介しました！（画像は3月20日放送分）

▲静岡県産米をPRする春日さん（上）とバービーさん（下）

静岡ジェイエイフーズ㈱から新商品販売のお知らせ

県産みかんのストレートジュースを新発売

静岡ジェイエイフーズ株式会社は、自社で搾汁した県産温州ミカンのストレートジュース「静岡みかんストレート果汁100％」を発売しました。

早生みかんの華やかな香り。酸味と、青島みかんの蔵出し熟成された濃厚な甘みを絶妙にブレンド。水・香料・着色料・保存料などの添加物を使わず仕上げました。

商品はJR静岡駅グランドキヨスクなどで販売しています。

問い合わせ：　静岡ジェイエイフーズ（株）　商品企画販売課
（TEL　054-369-2335）

令和3年3月31日付定年退職者のご紹介

このたび、令和3年3月31日をもちまして定年退職を迎えられた方々に、加藤敦啓代表理事理事長より本会職員を代表して感謝状を贈りました。ここに19人の方々をご紹介申し上げます。長い間本会を支えていただき誠にありがとうございました。末永くご多幸をお祈り申し上げます。

3列目左より　前田哲弘（左上）　増田正志　澤崎雅志　栗原隆彦　森下裕幸　篠田啓之　戸塚早苗　横田川紀秀　柴本智彦

2列目左より　川久保範一　石川好隆　山﨑　昇　前田陽一　鶴見孝喜　谷野文明　白山佳博　河合義久

1列目左より　山本弘子　石川和弘（常務理事）　加藤敦啓（代表理事理事長）　寺田国彦（代表理事専務）　鎌野　厚（常務理事）　市川敬弘（常勤監事）　望月野末

▲退職者の謝辞

▲退職者一人ずつへ感謝状が授与されました

毎月1回発行　編集発行／企画　管理課 〒422-8620 静岡県経済農業協同組合　連合会　静岡県静岡市駿河区曲金3丁目8番1号
TEL.054(284)9708 FAX.054(284)9780 http://jashizuoka-keizairen.net E-Mail:keizairen@kei.ja-shizuoka.or.jp

太陽の恵みの贈り物
みかん王国・静岡産温州みかん

機能性表示食品

1 果実の香り ぎゅっとみかん
濃縮還元果汁100%

（190ｇ×30本）
1缶に静岡県産温州みかん5個分の果汁を使用。
無加糖で温州みかん本来の香りと甘さが際立つ、贅沢な味に仕上げました。

機能性表示食品

2 みかん日和
濃縮還元果汁70%

（190ｇ×30本）
砂糖由来のイヌリン（食物繊維）を使用し、従来のみかん飲料より、酸味を抑えさらにおいしく飲みやすくなりました。

3 本物果汁入り スパークリング みかん
（280ｍｌ×24本）
静岡県産温州みかんの果汁を10%使用し、フレッシュ感の高い柑橘系の香りと"キリッと"パンチのきいた炭酸飲料です。

組合員のみなさまへ

静岡県ＪＡの 特産ドリンク

期　間
2021.４月～2022.3月末

特保飲料

4 香るほっ茶
（490ｇ×24本）
静岡県内の茶主要産地１１地区の茶葉を贅沢にブレンド。
食物繊維（難消化性デキストリン）の働きにより、糖の吸収をおだやかにするので、食後の血糖値が気になる方に適しています。

淹れたての おいしい緑茶を お届け！

静岡県産 茶葉 100%使用

5 静岡茶 ゆったり 490g
（ボトル缶）
（490ｇ×24本）
静岡茶の香りが感じられ、すっきりした飲み心地が特長です。

6 静岡茶 ゆったり 290g
（ミニボトル缶）
（290ｇ×24本）
県内産茶葉のみを厳選し、煎茶抹を加えた茶飲料です。

ご当地シリーズ

7 ちゃレンジ
静岡県産 茶・みかん

（280ｇ×24本）
静岡県産の温州みかん（果汁30%）と一番茶を使用し、みかんの甘さとお茶の渋みの絶妙なバランスを追求しました。

8 りんごジュース 密閉搾り
青森県産 りんご

（195ｇ×30本）
完熟青森県産りんご「ふじ」を主体としたストレート果汁100%ジュースです。製造工程で空気がふれないよう特殊製法で作りました。

9 紀州うめドリンク
紀州産 うめ

（195ｇ×30本）
紀州産南高梅を使用したほんのり甘く、やさしい風味の10%果汁梅ドリンクです。

10 ノももン
NEW
山梨県産 もも

（190ｇ×30本）
マイルドな桃のあまみが感じられ、さわやかでスッキリとした口あたりが人気です。濃縮還元果汁100%

11 信州トマトジュース
（有塩）
長野県産 トマト

（数量限定商品）
（190ｇ×30本）
トマトはすべて長野県産！食塩は天塩を使用し、まろやかな味に仕上がっています。

12 北海道トマトジュース
機能性表示食品　（無塩）
NEW
北海道産 トマト

（160ｇ×20本）
トマトの一大産地でもある北海道産トマトのみを使用した、食塩無添加のトマトジュースです。

13 ラ・フランスフルーツジュース
NEW
山形県産 ラ・フランス

（160ｇ×30本）
山形県産（天童市産）ラ・フランスを搾った果汁100%のストレートジュースです。

14 ぶどうジュース
NEW
長野県産 ぶどう

（160ｇ×20本）
ぶどうの風味豊かなおいしさと、砂糖や香料を添加していない、果実そのもののおいしさをご堪能ください。

JA静岡経済連

担当：くらし支援部　生活葬祭課（TEL 054-284-9740）